夕刊 磐城新聞
八月十七日發行
發行所 磐城新聞合資會社
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇六・八五五番

愚庵の臨終（五）

岡田生

背後の泰長老の森に一しきり木枯が過ぎた。そして頭をよせあとに穩かな愚庵の寢息がおごそかに聞いた。火鉢を取り圍んで和尚の最後を見舞はうとして居た見舞客の不安な堅い表情は、疲勞と安心とに崩れて行つた。そして赤くほてつて來た。

死は求めて之を期するのでなければ其の歩調を人間の注文通りに合はせてくれるものではない。見舞客が一人減り、二人減りして漸い汽車で歸つて行つた。殘りの者は休憩所に當てられて居た隣りの白雲子の別邸に引き取つた。醫師の桃山城の礎だつた千引の石のしみつく音が冴ゑて、夜は靜に更けて行つた。

×

十六日。早朝。突然に愚庵は元策に命じて全身を綺麗に拭きぬぐはせた。それから先師滴水和尚傳來の白衣を着し、麻の法衣を着けて仰臥した。そして瞑目して更めて何物かを待ちつゝあつた。

此の日は殆ど見舞の客とてはなく、枕頭の香がいたづらに細く立つて靜に薬れて行つた。

夜十時すぎた頃、かすかに喘鳴が起り始めた。醫者は愚庵の水腫した右手を取つて脈搏を調べた。それから血の氣を失つた足の爪を更めて見た。そして再び手頸を取つて、暗く眉をよせおごそかに告げた。

「御大事は定つたやうであります」

櫻井一久、白雲子、それに弟子の元策は代る〴〵水を筆にふくませて愚庵の脣をぬらした。

醫者は握つて居た愚庵の手頸を靜に置いた。明治三十七年一月十六日午後十一時、和尚示寂。と元策は明かに愚庵の病床日記に書き入れた。

「萬事終了ですか、爲す可き何事もないのかね？」

押しつまる沈默を破つて突然に白雲子は醫者に尋ねた。

「ええ……何事も和尚の御身分ですから……」

「では、身分が坊さんだから俗人とは取扱ひ方が違はねばならぬと云ふのかね？」

「それ、これが和尚のやうな方でなければ最後の一滴が殘つてゐるのでありますが……」

「最後の一滴とは何事ですか？」

「これが普通の俗人であるならば一刀の注射を試みることが常でありますが……」

「坊さんでも俗人でも、智識でも凡物でもその人間たるには同じでせう。」

8月18日

△豐臣秀吉歿（慶長三）△佛詩人キマン歿（一、九〇〇）△我陸戰隊增援部隊上海到着（昭和一二）

挨福來技師（其ノ一）

珠雲 小野豁平

多年精勵港灣開
勸業卓然天下推
官界聽蹉是常事
他時運會復重來

つゆの句

○

日ぐらし日の暮はいほい溜來る　井泉水

酒井耕影先生を悼む

山崎平華生

○仁術を實踐玆に五十年
○君逝けど徳慾永久に光りけり
○諸人に惜まれて君大往生
○棺蓋うて倍々光る君の徳
○刀執れば壯者を凌ぐ名國手
○何時も君春風の感與へけり
○君の德讃へて式は日本晴
○盟友を泣いて送りて君も亦
○俳友を追うて彼の世に句莚かな
○刀圭の小閑偸み趣味に生く

善さん

武田勇治郎

北支でてがら
たてなされ
た骨で村へ
歸へて來た
燈明にゆれる
善さんの
最後の便り

よみなさる
校長先生も
なみだごゑ

壁

春山まこと

日ぐれは
淡い虹いろ
ボロボロと
壁に描くは
父さんのかほ
北支那の
山はたかゝろ
谷はふかかろ
てつかぶと
ふかく
父さんのかほ
日ぐれは
支那も紅いろ
ボロボロと

講談 隱密小天狗（おんみつこてんぐ）(101)

中川雨之氏作
近藤鐵氏畫

地獄の苦み

初めて會つた人の前で、涙を見せようなぞとは夢にも思はぬことであつたが、悲しい身の上ばなしに心も濕つて、小夜美は、思はず聲を霑ませた。

「偖て〳〵お氣の毒な身の上だ」

と、同情を籠めて言つたが、

「父の名を知らぬ」といふのが、寧ろ却つていまの三郎兵衞に、仕合せであつた。

しかし、たつたそれだけ短い一語を言ふのさへ、腸をかきむしられる苦しさで、その老の眼に、いつか涙が湧いてゐた。

三郎兵衞は、そのまゝぢつとして坐つてゐることがとても苦しくなつて來た。

生れて間もなく、別れ〴〵になつてゐたわが子と二十年振に廻り會ひながら、晴れて親子と名乘り合ふことも出來ず、かうして差し向ひに坐り合つてゐるといふことは、ちやうど、鋭い刄で、胸先を抉られるにも勝る苦しみであつた。

針の蓆といふのはこれだらう、彼は、どうにもかうにも堪まらなくなつて來て。

「一先づ、御無禮致し、いづれまた改めて、これはどうも、飛んだお邪魔を仕た」

と、今まで、そんな風に見ねなかつたのが、唐突に歸り仕度を始めたので、小夜美も驚いて、

「でも、折角いまゝで、お待ちを願つて、程なく歸つて參りませうから、どうぞ暫らく」

といつて引留める。

「いや〳〵實は、外にまだ少々用事もあるので、其方を先に濟した上、歸りがけに、又お邪魔をするかも知れぬ」

と、逃げ口上とゝもに、强ひて立ち上り、座敷を出しなに、小夜美に氣づかれぬやう、片手拜みに、ソッと佛壇の方へ目禮を送つて、そのまゝ戸外へ飛び出して、ホッと胸を撫で下すまで、何が何やら、まるで夢中だつた。

針の山、血池地獄の苦しみから、遂の盃に救はれた心地とも謂へようか、三郎兵衞ホット安心はしたものゝ、しかしそれは何處かに物足りない、寂しい處のある安心だつた。

戸外へ飛出してしまつてから偖て考へると、

「やつぱり、此のまゝ別れてしまひたくない」

といつた物足り無さに、後ろ髮を引かれる思ひがする。

若しも、其處まで、小夜美が追つて來て强いて引留めたなら、彼は喜んで、もう一度後戻をしたかも知れなかつた。

やがて、彼は神田の住居へ歸つて行くのだつたが、胸には鉛を抱かされたやうに足には重石を付けられたやうで、道はなか〳〵捗取らない。

その道次、彼は考へつゞけるのであつた。

「おれにはもう、俊作は斬れなくなつてしまつた。たとへ彼が、幕府の隱密であらうが、また一味の秘密を探つて、何かためにしようとする惡漢であらうとも、おれの腕はもう鈍つてしまつた」

と、

彼は、遂に、俊作を斬る氣がなくなつたばかりで無く、今は却つて、それと反對に、强い親しみをさへ感じるやうになつて來たのである。

何といふ急激な變化であらう。ほんとうに、瞬きをする間に、彼の心は憎しみから親しみへと、戸板返しに引つくり覆つた。

廣告

おでん
たつた揚
やきとり
ソーダ水
一平（イッペイ）
電話二六三番

酒とマヅイ
おでんの
平市田町花ノ里
電話三三番

空冷式 健康陶枕
笑はれる程よく眠れる、疲勞倦怠を快復し精力記憶力を增進する實用新案の健康陶枕
效能
腦を酷使する人、腦神經衰弱の人は藥よりも この空冷式健康陶枕を……
高血壓症　のぼせ症
腦溢血症　耳鳴、頭痛症の方に
不眠症　特に卓効あり
特約店 平市五丁目 入江陶器店 電話五八二番

暑中御伺
平みやげ 米やの最中
暑中御見舞
御中元各種折詰
高級最中 米や最中專門店

旅舍 大幸館
東京上野驛前 下谷郵便局横通角
電話下谷(83)六七七番
私は平市出身ですから特に郷里の皆樣方の爲めに御便宜を圖ります
主人 比佐櫄雄

開店披露
一、公債、株式、債券 現物賣買
株式は一株より
債券は一枚より
迅速簡易ニ御便宜御取扱致マス
㊓ 株式店
福島縣平市田町二十五番地
電話三六五番

精神病科
腦・脊髓病科
神經病科
郡山驛より約三十丁 安積中學より約五丁
内務省指定
福島縣立代用精神病院
郡山腦病院
郡山市外大槻村針生
電話九二五番
入院隨時
院長 醫學士 金森五郎

ニッポン・魚は原魚
日本製氷 特約
平製氷會社
タ　ヒ　甘鯛
エ　ビ　マナ鰹
白　魚　帆立貝柱
冷　カツノコ　ウニ貝燒
ヒノマル凍魚
平 魚問屋
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

磐城の御みやげ品
名物 靈峰（みやま）羊羹（名産柿煉）
姉妹品
磐城耶馬溪……美山羊羹
同 七濱……のり羊羹
同 豐間……辨天羊羹
◎各種 一本 十錢
製造發賣元 小川郷驛前 平屋賣店

お醤油は……ヤマフル
味噌 醤油
たひら正宗
鰹節 食料品
醸造 山崎合名會社
福島縣平市
電話（營業部一〇番 本店二七番）
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

產科
婦人科
花柳病科
午前宅診
午後往診
入院應需
井坂醫院
平市田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

新製品御知らせ
今年の殘暑は
一心堂の
アイスカクテルで
●當店獨特の製法風味滿點
是非一度御試食を……
一、アイスカクテル　一個四錢
一、フルツケーキ　一個四錢
右多少に拘らず御電話次第配達致します
平市七丁目（電話六二六番）
一心堂製アン所
キャンデー部

銘木（床ノ間材）
天井板、ベニヤ板買ふなら
確かに御期待に添ふ良品廉價の
万 織田材木商店へ
福島縣平市
電話平 四六〇番
一變せる勉强振りを、ぜひ一度お試を乞ふ
營業種目……建築木材一式 銘木・ベニヤ板 秋田産杉四分板 建具材・便利瓦……
◎小店員募集
年齡十五歲ヨリ廿歲迄

銃後の皆樣におすゝめする
（糸イラズ）
綿布、綿糸、暴騰の折柄古き破れたる足袋、靴下メリヤス、ジャケツ、其他何品に依らず活かして御使用出來ますから一家の經濟は勿論ひろく國家の經濟は莫大なものとなりませう。男子の方や御子樣方でも容易に修繕出來まして糸や針がなくても立派に仕上りますから此の非常時の場合是非一家に一個御揃へ御使用下さい。
（定價二十錢 三十錢）
平市古鍛冶町一〇（縣社下）
阿康藥局
電話四四番
振替東京三〇〇六五番

胸に愛國手に國債
來る廿二日の第五回賣出しを前に　平局で大童の宣傳

赫々たる戰果を擧げつゝある無敵皇軍をして遺憾なく聖戰の目的を達成せしめ銃後の務めとして來る二十二日から十日間戰費調達『支那事變國債』第五回郵便局賣出しが行はれることになり、平局では從來以上の好成績を擧ぐべく此程『胸に愛國手に國債』の標語を現した印刷物を市内の主だつた方面へ配布した、從來のものと比較して變つてゐる點は最少額十圓券が出來たことである十圓券=九圓八十錢、二十五圓券=二十四圓五十錢、五十圓券=四十九圓、百圓券=九十八圓、五百圓券=四百九十圓、千圓券=九百八十圓、利率は年三分五厘、利廻は年三分六厘八毛、利拂期限は六月一日、十二月一日の二回であるが十圓券のみ十二月一日の一回限りとなつてゐる、なほこの國債を現金に換へたい時は何時でも郵便局で買上げることになつてゐる、因に平局に於ける昨秋第一回以降の消化額は既報の如く實に十二萬圓の巨額に上り、今回の賣行きは過般の風水害關係で差當り小當りに試みた豫約勸誘の成績等から觀て幾分減少を見越されて居るが大体三萬圓位の豫想であると

六十錢制實行か
市内貸切自動車料金を　交通專門委員會が決議

平市内の貸切り自動車は去る五月のガソリン統制以來五十錢より八十錢に急激な値上げを行つた爲め、さらでだに緊縮意識の旺んな利用者から期せずして一大ボイコットを受けたに狼狽し自發的に七十錢に値下げ！大慾は無慾に均しいの悲哀を痛喫したが去る十二日開かれた縣の交通專門委員會に於て、縣下四市を悉一齊に六十錢に値下げする事に決定したので、營業者の間に採算上猛烈な反對が擡頭して居るが、時局に立脚し各方面から研究論議の結果決定した前記料金は恐らく確固不動の斷案として之が實行され、利用者の負擔が輕減されるに至るだらうと觀られてゐる

○○○○○ 肥料對策講演

自給肥料の増産を期す時局肥料對策講演座談會を來月三日平國體事務所に開かれる講師は縣農務課田中温、松浦忠夫縣技師、聽講者は實行組合長、施給肥料實行委員、一般精農家である

蠅取デー終る　あす抽籤執行

市内長橋町いはき新報社主催の蠅取り成績は十六日九百三十二名三十三萬五百三十九匹、十七日五百六十一名十二萬四千二百十五匹參加人員合計千四百九十三名、この捕獲數四十五萬四千七百五十四匹で昨年よりズーッと多い、明十八日抽籤で入賞者決定

○○○○○ 信組總代選擧

郡下信用組合の總代員選擧は二十日午前九時から午後三時迄各町村毎に行はれる

三名―平市、大浦村、四倉町、小川組合村二名―草野村、赤井村一名―江名町、大野村、夏井村、好間村、磐崎村、高久村、大久村、木戸村（合計二十四名）

國の鎭め五柱

風雲の散華左記五勇士の内郷村葬は來る二十八日午後一時から同村小學校に於て執行すると

歩兵伍長遠藤平右衛門　同上等兵勳八等菊地幹　砲兵上等兵後藤莊太郎　輜重兵同今政治　同一等兵星賢三各靈

廿八日内郷村葬

毛布十枚を前線將兵に　高橋市議から寄附

常に各方面の義捐喜捨に篤行を續けて居る市會議員高橋龜松氏は毛布五枚を令閨まきさん以下、高橋うた、同かつえ、同てる、中島たいさんの同家一族は各一枚を前線將兵に送つて欲しいと今十七日青沼市町に願ひ出た

他地方よりも高い　郡下の初秋繭相場
出廻り約四萬貫か

郡下の初秋繭は早い方部で昨十六日から出廻り四倉市場も同日取引を開始した、蠶發取締平支所の調査によると今年の出廻り豫想數量は約四萬貫、相場は早目に出廻つたところで貫當り四圓二、三十錢で會津方面よりは比較的高値を呼んでゐる

晩秋繭の掃立は總渡方部の山手はこの二十五日頃平坦部の掃立最盛期が來月三日前後だから出廻り最盛は來月下旬に入らう一方桑葉の發育は天候不順に祟られて例年程度ではないが當局の指導宜しきを得て桑不足等は來すまい、四倉市場は初秋繭の取引を終れば一たん閉鎖の上夏秋繭を待つて再び取引が續けられる

最高四圓台突破　昨日の四倉市場

四倉乾繭組合では昨十六日夏繭の初取引を行つたが出廻り百五十貫、最高四圓六錢最低三圓八十錢來る二十六日からの秋繭の取引を前にあと一日夏繭の取引が行はれる、秋繭の相場は高四圓五、六十錢、安四圓二三十錢台を豫想される

この値で―賣って下さい
廢品回收相場決る　けふ宣傳方法協議

平市の廢品回收懇談會は今十七日午前九時から市會議事堂に開き、昨報申合せ事項を議決の上愈よ支部員によつて市民の銃後心に訴へることゝなつた、一般は先づ一昨十五日現在の左の相場に基いて賣却されたいと

（一貫匁）＝機械イモノ五五　鐵屑三〇　釘及針金屑一五　ブリキ屑一〇　潰自轉車二〇　鍋釜二五　ニユーム屑四、〇〇　イモノニユーム屑二、〇〇　上銅屑三、〇〇　下銅屑二、〇〇　眞鍮屑一、八〇　唐金二、二〇　鉋金三、五〇　鉛管屑一、八〇　鉛屑一、二〇　煙草銀紙一、五〇　亞鉛屑一、〇〇　モス、毛糸四、〇〇　ボロ屑二五　古綿八〇　古雜誌二〇　古新聞三五　紙屑三　ゴムクツ四　一升壜五　一升キカイ壜三　ビール壜一　サイダー壜二　二リツトル壜四

○○○○○ 自轉車泥に一年

湯本町で自轉車泥を働いた宮城縣栗原郡生れ前科三犯清水正男（三六）は十七日平區淺野判事から求刑通り即決で懲役一年

將兵の勞苦を謝す　國境事件に感謝電報

平市では國境事件の關係部隊に對し青沼市長の名で左記感謝電報を發した

國境事件に當り隱忍自重能く守備の大任を完ふせられたる將士の御勞苦を感謝す

二勇士　國境に散る

張鼓峰事件で磐崎村出身の二勇士が壯烈な戰死を遂げた

大井川利雄伍長

同村藤原磐炭長倉坑事務員、父庄八さん（四九）母ウラさん（四九）の長男で八人兄弟、最近弟十三男君の許へ『これでお別れだらう兄亡きあとは孝行を盡せ、孝行は物質的ばかりでなく精神的が大事だ、そして立派な男になれよ、會ひたくば靖國神社へ來い』との遺言めいた便りを寄せてゐた

鈴木茂雄一等兵

同村西郷出身、周吉さんの次男で出征前までは湯本町品川白煉瓦に勤めてゐた模範社員である

國府田氏寄附

市内鍛冶町國府田直良氏は軍事後援會へ二十五圓寄附

陣中を聽く ……（216）……

堅固な設備を持つて實に不可解な退却
市内舊城跡出身　西内牧造君（信通）（下）

當地方は數日前より故國の入梅を想はせる様な降雨で、例によつて泥濘と化し誠に難澁して居ります。附近の農住民は支那軍滯在の爲め殆ど避難して居りましたが日本軍の到着によつて續々と歸宅して居ります、國民から尊敬されてない彼らは理想的な陣地を構築して居り作ら攻擊に會ふと直に退却してしまうのです、實に不可解でなりません。陣中は何時も敵地に在るとも想へない朗かさです。そして今を盛りの桃や胡瓜を食べ作ら直ぐ熟す西瓜を樂しみに故郷の知識を得ることにのみ努力して居ります。何れ○○到着と同時に詳報致し度いと思つて居ります、亂戰にて取り急ぎお禮のみ申上げます。何卒市内皆々様に御芳志の程を御願ひ致します、最後に平市の益々發展あらん事をお祈り致します。

終末未だし
市内五丁目出身　篠崎善平君

今年は内地も諸處水害が襲ひ相當の被害がある同時局多難な折柄、重ねての重荷に嘸御心痛の事とお察し申上げます。

當地も例年に比し意外に雨量多く珍しくも鐵道不通の事故すら起る様な次第で不順な天候に頭を惱まして居ります、戰果も非常に擴大され、蔣軍潰沒落の日も眞近に迫つて參りましたが事變の終末は未だ豫測を許さず、吾々の前途には幾多の難關來るを免れざる現況にして銃後の皆々様もあらゆる物資の統制に嘸不便を感じつゝお暮らしの事と存じますが、時勢に鑑みて益々銃後の生活戰に邁進遊ばされます様御願ひ申上げます。

小兵も皇軍の一員として皆々様の御期待に添うべく奮闘致す覺悟で御座いますれば相變らず御鞭撻をお願ひ申します（後略）

暑中御伺ひ
市内新川町出身　伊藤退之助君

暑中御見舞申上候

當も銃後の御後援を感謝し、皆様の御健康をお祈り申上候

昭和十三年盛夏

～◇～

大谷市議寄附

市社會課の應召家族に對する授産的の陸軍被服縫製は既報の如く平陽女學校を會場とし、連日相當の能率を擧げつゝあるが、時計の備へ附けが無く事毎に不便を感じて居ることを聞き込んだ大谷市議から此程大時計一個を同所に寄附した

▷▷▷▷▷▷▷ よくも似たこの名前
迷惑かる當の眞船氏

殺、山林詐欺の首魁前科五犯眞船茂藏（三九）は元本縣學務課員豐間市助役眞船民伊氏の變名の如く云はれてゐたが十七日當の眞船助役から平署へ釋明の手紙が入つて全然別人と判つた

これによると犯人は安積郡赤津村生れだが眞船助役は同郡三代村その名も眞船助役は民伊だが犯人の實父は民江である名前の一字異ひによつて『とんだ惑迷をしてゐる』とのこと。尚犯人義造らは今十七日身柄を送局された

廿日魚無しデー
平海産商組合で公休實行

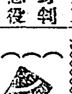
市内各營業團体では近く商店法の實施を控へ、夫々自發的に公休制を定め時代に即應した實踐に曾てない明朗氣分を見せ、而も之の傾向は漸次各方面に及ばんとしつゝあるが平海産物商業組合でも毎月二十日を公休日と決定、實行することゝなつた、將來この日が全市の魚無しデーとなるわけである

南京から

先月二十六日南京を出發し〇〇に一週間も滯在し主として〇〇郷土皇軍の慰問を遺憾無く相果し本日無事此地に戻りました御安神下さい

六日　南京　小松茂藤治

艷罪黑白（えんざいくろべちや）



◇ある婦人科醫の話によると、女性中株屋の喜ぶ体質の所有者は大体五十人に一人位の割合であるとの事◇其の勘定で行くと約百人内外の新田町連中には少くとも二人は無けりやならぬことになるが◇餘りに定評ある彼女は共れとして、も一人の彼女に就ては殿方間の學說が區々に亘つて◇殆ど歸一する處を知らない、なんて大げさな云ひ方は止せよ。だつて隨分蒸發い話ダァ◇『ウチんのは頭ぢう虫の子だらけで困つちまうんですよ』と甲女將が云うと◇『でも每晚大みづをやられんのから見ると遙かに始末が良う御座んすよ』と乙かあさんが云ふ◇云はすと知れたお袋小と牛風子の比較優劣論、午後三時過ぎの新田町風景であるが◇今でこそ立て膝か何かで涼しさうに大きなことを云つてる第一流どこでも一回は必ずこの仕込つ子の時代を經て來たんだ◇と云ふから、矢張り蛙の小さい時がお玉シヤクシであつたと云ふ理くつがうなづかれるそうな◇時節柄キヤンデーと水蜜の食べ合せて腹をこはし、お座敷を休まないやう注意を促して筆をおく

お祭り

市内九品寺境内聖德太子大祭を今十七日夜、鎌田町延命尊祭は二十三日夜行はれ餘興は何れもニユース映畫其他

應召者の公訴棄却　赤井の佐藤守義君

神兵隊事件續行公判は十六日午前十時大審院宇野裁判長、三橋、池田兩檢事係りで開廷、被告天野氏がなほ病氣療養中の爲裁判長は九月六日まで再延期を宣し、更に缺席中の被告赤井村出身の佐藤守義氏（三八）が中支派遣軍特務機關の軍屬として軍務に從事中である事が調査の結果明瞭となつたので裁判長は檢事、辯護人の意見を訊し管轄違ひとして不出頭のまゝ同被告人に對し公訴棄却の言渡を行ひ同十分閉廷した

入用
一、少年少女工場員

小學卒業程度市内居住のもの、來談あれ

磐城新聞社

十八日（小名濱測候所發表）

滿潮　前七、一五　後八、一〇

干潮　前一、四〇　後一、四五

八月十八日　木曜　舊七月二十三日　壬午　大安　開　角宿

▲一白　大願の日何事にも我を通せず進むがよろし▲二黑　波風なき様に見へても油斷のならぬ日なり▲三碧　心のみせうりよして無駄に時の立ち行き易き日▲四綠　目上の同情ある日けんそんなれば更に實入あり▲五黃　氣に緩みを生ずる時は意外失敗のある日▲六白　進出するは凶なれども心のさびれぬ様にせよ▲七赤　吉日なれども油斷すれば秋じよ次第にみだれん▲八白　意見の通らぬ日屈するはのびるの基ひと知れ▲九紫　運氣堅實となり事業も益々發展し行くべし

▼強力流經劑

▼淋病。梅毒特効藥▲

▼御來談アレ▲

山野邊東次郎藥局　平市五丁目角

謹啓亡妻マス儀葬送の際は遠路態々御會葬被成下且つ御鄭重なる御香奠を賜はり御芳志の段有難く奉深謝候拜趨御禮可申述の處乍略儀以紙上茲に謹みて御禮申上候敬具

昭和十三年八月十七日

平市鎌田町　草野七五三之助　外親戚一同

平病院（平市元共濟病院跡　電話六四一番）

院主院長　醫學博士　鈴木定藏

今般副院長として高橋俊幸氏を招聘し『内臟外科・一般外科・皮膚泌尿器科』の診療に從事せしむ

内科　院長　鈴木定藏

小兒科　部長　佐藤幾要司

内臟外科・一般外科・皮膚泌尿器科　副院長　高橋俊幸

レントゲン科　部長　鈴木定藏

物理的療法科　技師　吉川元雄

藥劑科　部長　吉本孝平

診療時間……毎日午前八時ヨリ午後五時迄・夜間診療ニ從事ス（急患ハ此ノ限リニアラズ）

前田醫院　植田町本町　電話一二四番

◈内科、小兒科　院長　前田清美

◈外科（内臟外科、花柳病科）

◈産婦人科　副院長　幸恒足

◈耳鼻咽喉科　副院長　兒玉秀純

X光線科

（手術室入院室完備）

事務員と見習募集

事務員は廿三歳から卅三歳まで（給料卅圓乃至六十圓）、見習は十五歳から十八歳まで（詳細面談）

姓名在社

診療科目

一、齒科一般　保存科、補綴科、繼續架工科、齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科

一、口腔外科

一、レントゲン科

中野齒科醫院　平市田町（松月堂向ひ）（電話五〇九番）

院長　日本齒科醫學士　中野藤次

日大齒科醫學士　塩谷伍郎

補綴部主任　佐藤重義